

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

## 永年勤続者表彰

10月12日(木)二松学舎大学1号館で教職員の永年勤続者表彰が行われ、本校から齋藤先生、相良先生のお二人が表彰されました。学校法人二松学舎の水戸英則理事長からお一人ずつ表彰状が手渡され、永年にわたる本校での勤務に対し、労いと感謝の言葉が贈られました。

これまでお二人の先生は、担任として卒業生を幾度も送り出し、現在、齋藤先生は2学年主任、相良先生は1学年担任と図書業務を担当いただいています。教科指導においては数学と国語の担当として生徒指導に当たられています。また、部活動では、吹奏楽部と書道部の顧問としてもパワフルかつ丁寧な指導をいただいています。

今後も附属高校のため、健康に留意され、ご尽力ご活躍いただくことをお願い申し上げます。



## 日本語はむずかしい!?

「涼しい顔をする」、「雨模様」、「号泣する」のそれぞれの言葉の意味をちょっと考えてみましょう。

「涼しい顔をする」は、「大変な状況でも平気そうにする」と答える人が約6割。

「雨模様」は、「小雨が降ったりやんだりしている様子」が約5割。

「号泣する」は、「激しく泣く」が約4割でした。

しかし、本来の意味は!!

それぞれ、「関係があるのに知らんふりをする」、「雨が降りそうな様子」、「大声を上げて泣く」です。えっ〜ビックリとの声が聞こえてきそうです。

これらは、文化庁が9月末に公表した『国語に関する世論調査』の「本来の意味と異なる言葉の理解の調査」において紹介された言葉です。また、新しい表現では、

「引く」(異様だと感じてあきれる) 「盛る」(よりよく見せようとする)

「寒い」(冗談がつまらない) 「推し」(気に入って応援している人や物を意味する)

この4つは、約半数以上の人(「引く」は7割)が「使うことがある」と回答し、約8割の人が「他の人が使っても気にならない」と答えています。SNSの普及により、ネット上で使われやすい言葉が、日常会話でも広まってきているようです。

一方で、普段「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」、「敬語を適切に使う」、「差別や嫌がらせ(ハラスメント)と受け取られかねない発言をしない」と8割超の人が答えており、文化庁では「SNSの広がり、個人が自由に情報発信できるようになり、発信する言葉に気を使っている人が増えた影響ではないか」と分析しています。言葉の意味が分からない時、「ネットで検索する」が6割、「PC・スマホの辞書アプリで調べる」が4割、「紙の辞書を引く」は3割弱とSNS等と上手く付き合っている様子が伺えます。

言葉は生き物と言われます。時代とともに進化するのは仕方がないけれど、大切にしたいですね。

